



- Explore the regions -

文 | 井上英樹
Text: Hidaki Inoue
写真 | 齊藤有美
Photographs: Yumi Saito

船で瀬戸内に行く

瀬戸内の風景を、日本の原風景と呼ぶ人は多い。旧石器時代の遺跡などから、3年以上も前から人々がこの地に住んだと考えられている。江戸時代になると北海道や日本海側の海産物を大坂（大阪）に運ぶため、「西廻り航路」すなわち北前船が往来するようになった。門司から大坂へと抜ける穏やかな瀬戸内海は、さぞかし船乗りたちをほっとさせたことだろう。寄港地として、尾道も利用された。北前船が到着すると、町は賑わいを見せたという。賑わいは富をもたらし、多くの豪商が誕生した。その財は寺や町の整備などに使用され、尾道はさらに発展した。現在では年間約680万人もの観光客が訪れる。しかし、なぜそれほどに人を惹きつけるのだろうか。

狭い土地を開発したため、尾道は坂が多い。観光スポットの多くは坂の途中に存在するが、海からの眺めもいいや、むしろ海から尾道を見ると、いかに瀬戸内海と関連して発展したかがよくわかる。

瀬戸内クルージングが運航する船に乗り、尾道から鞆の浦（福山市）に向かった。およそ24キロの距離を1時間ほどかけて行く。土・日曜の観光航路では、船長が歴史や時事ネタを織り込んだ案内で、乗客を沸かせる。決まり切った原稿を読むのではなく、ウィットに富んだ話が楽しい。船から尾道を眺めると、町が海にせり出しているように見える。昔の船旅に思いを馳せて、船に揺られた。時折、通り過ぎる船から手が振られる。なぜ、人は船に乗るとこんなのにのんびりとした気分になるのだろうか。そうか、こののんびりとした気分になれるから、尾道は人を惹きつけるのか。そんなことを思いながら、また船に身を委ねた。

Tastes of JAPAN by ANA

平成30年7月豪雨により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。ANAは、地域とともにまだ知らない日本の魅力を発見し、国内外に広くお届けします。2019年2月号までは中国・四国エリアを取り上げます。



"Tastes of JAPAN by ANA" 専用サイト

尾道への翼

東京（羽田）他からANA便で広島空港へ。空港からクルマで約45分。



①向こう岸へ車や人を運ぶ渡船。
②尾道から船旅で鞆の浦へ。常夜灯や雁木などが残る日本の遺産。
③瀬戸内クルージングの藤井船長と瑠夏さん親子。「観光で訪れた際は、海から尾道の景色を味わってほしいですね」と瑠夏さん。
④千光寺山からの眺め。まるで川のように見える瀬戸内海。対岸の向島までは渡船でも行ける。
⑤尾道の名産「でべら」。手を広げた「手平」が語源という説がある。あぶって食べたり、揚げたり、酢の物など、様々な食べ方がある。
⑥千光寺山ロープウェイ。約3分の空中散歩。
⑦坂の多い尾道の風景。

瀬戸内クルージング tel.0848-36-6113

※11月18日(日)までの期間、土・日曜・祝日1日2往復運航。

広島県 尾道

